

先進校視察報告

教諭 鈴木和人

日時 平成24年12月13日(木)、14日(金)
視察先 1 東京都立小石川中等教育学校(東京都文京区)
2 豊島岡女子学園中学校・高等学校(東京都豊島区)

1 東京都立小石川中等教育学校

<学校概要>

創立 大正8年府立第五中学校

生徒数 1学年4学級160名、6学年合計952名

教員数

職名	校長	副校長	主任教諭	教諭	養護教諭	その他	計
職員数	1	2	26	18	2	52	101

特色

平成18年都立中高一貫校開校。前身の都立小石川高校8クラスを中学校4クラス、高校4クラスに再編成した。「立志・開拓・創作」を校是とし、国際社会で活躍するリーダーとなり得る人間、教養人の育成を目指す。この実現のために「小石川教養主義」「理数教育」「国際理解教育」を3つの柱として、完全一貫性である中等教育学校ならではの「よさ」を活かした教育を行っている。

「小石川教養主義」…1年生から読書活動、言語活動、探求活動を重視し、3・4年生全生徒が「小石川フィロソフィー」に取り組む。「科学的思考力、自己学習力、コミュニケーション力を高め、国際社会で活躍するリーダーを育てる」という目標を掲げ、多様な講座から生徒が興味のある講座を選択して受講する。最終的には自らが設定したテーマで研究を行う。3年生が1単位(総学)、4年生が2単位(課題研究)。広く深い知識に裏付けられた教養を重視し、全員すべての教科・科目を学び理系文系には分けない。

「理数教育」…現在SSHの指定を受け、全生徒を対象にSSH事業を展開している。母体校である小石川高校の指定と通算して開学以来10年の指定になる。また、昨年度に続いて今年度もコアSSHの指定を受け、日本学会議、大学、研究所、海外の理数系教育重点校などと連携しさまざまな活動をしている。中でも、高校生国際物理論文コンテストでは、優秀賞を受賞するなど優れた成績を収めている。

「国際理解教育」…海外語学研修として、3年生160人全員が約2週間バラバラにホームステイ(予算は1人当たり約40万円)している。語学のみならず精神面にも成長が見られ、大人になる手がかりを獲得するとのことである。また、コアSSHの指定校として「理数教育」と融合させ、海外の理数教育重点校と連携し、国際バカロレアの授業体験など新しい教育の実現に挑戦している。

中高一貫校になることで、中学1年生から高校3年生までを指導しなければならなくなった。6年間一貫して指導できるメリットがある反面、逆にそれを負担に感じる教員もいる。一貫校移行時に大学受験のノウハウを持つベテラン教員が多数他校へ異動したため、現在は若手の教員が多い。

小石川高校時代、都内では「中のトップ」であった学力層が、一貫校になってから下方に拡大した印象を受ける。入試のミスマッチが原因と考えられる。2クラス3展開で授業を行っているが下位層の支えが大変であり、その下位層の中でも更に上下差が拡大している。

進路志望は幅広く、学術系が多いが芸術系もいる。高校入試の経験がなくメンタルが弱いと感じる。進学一辺倒でなく教養重視の学校であり、9月に学校祭などの行事が多く(大学入試への)切り換えが難しいのが課題である。

2 豊島岡女子学園中学校・高等学校

<学校概要>

創立 明治25年私立女子裁縫専門学校

生徒数 中学校1学年6学級782名, 高等学校1学年8学級1066名, 合計1848名

教員数

職名	校長	教頭	教諭	養護教諭	非常勤講師	その他	計
職員数	1	1	68	2	31	25	128

○学校説明

(1) 数学の授業の進め方について

中学校は数学増単、中1, 2で中学校1~3年の内容、中3で数Ⅰ・A、高1で数Ⅱ・B、高2で文系が受験対策、理系が数Ⅲ・C、高3が受験対策。中学校の方が進度を稼ぎやすい。高入生は別クラスで履修。高1で数Ⅰ・A・Ⅱの半分まで、高2で文系がⅡ・B、理系がⅡ・B・Ⅲを学ぶ。高校は8クラス編成で、うち文系3クラス(国公立2、私立1)、理系5クラスとなっている。

(2) 参考書や問題集などの副教材と使用法について

幾何の学力は、体系数学を用いており初等幾何のアドバンテージがある。副読本は3年間を費やして学校独自に作成した。「ジオメトリー」(中1・2用)、「INTERGER」(読み物)。問題集は教科書傍用問題集を使用している。

(3) 3年間(6年間)を見通した指導計画について

学校主導での文理の振り分けはしない。助言はするが本人の意志で選択する。国公立大学医学科志望が多い。最初はほぼ全員が国公立大志望である。近年は理工系志望者が多い。東大は約60名が受験し、約20名が合格している。OGを招いて在校生との接点をつくる。合格した先輩のOGノートの後輩が受け継ぐなどの取り組みを行っており、先輩を身近に感じがんばろうという気になる雰囲気作り心掛けています。不合格でも早慶を併願しており浪人は少ない。しかし、医学科志望は浪人が多く、順天堂大や昭和大大など学費が安い私立大を志望している。

下位層へのケアを厚くし、引き上げに力を入れている。例えば、朝の5分間を使って月例テスト(英単語・計算・漢字)を全員合格するまで繰り返し実施している。基本事項を問うもので、きちんと勉強してきている生徒は80点位とる。これによって家庭学習ができていないかをチェックしている。成績不振の生徒には、自宅での学習状況を把握するために個人面談を実施する。また、毎朝5分間運針の時間があり、創立以来続く精神修養の時間である。技能だけでなく集中力の養成にも役立っている。

(4) 課外授業、課題、添削などの授業以外の取り組みについて

5月の始めに「勉強の仕方」を指導する。ノートの取り方などを具体的に指導している。中1・2で「算額をつくろうコンクール」に応募している。冬休みの宿題として各自で問題を考えさせており、ここ数年は金賞を含め毎年受賞者が出ている。

正規の授業は高3の12月で終わり、以降は希望者を対象にセンター対策講習会(有料)を約140名程度で実施している。センターリサーチのときだけは全員登校する。センター試験後の2次対策講習会も同様に希望者を対象に実施している。

(5) その他

今後の課題は、授業の質の向上。発問の仕方や声かけを工夫するなどして数学嫌いをなくすことである。出来る生徒を伸ばし切れているか、本当に大事なことを伝えているか、「社会に出た後に生かせる指導が出来ているか」が問われていると感じている。数学科職員は13人(うち講師6人)。学年別職員室があり、学年担当間で話し合っている。教科の教材を共有することで作成者の意図を学んでいる。研究授業や公開授業(他教科の授業を見学)を計画的に実施している。